

■自動車アセスメント試験評価 概要

幼児の体格を考慮した視対象物を以下3種の衝突パターンを模擬した位置へ配置し、バックモニターによる視認性を評価。(満点:2点)

- (1) 近接視界試験 (図2 車両後方に入り込んだ状態の衝突)
- (2) 近傍視界試験 (図3 巻き込み衝突)
- (3) 遠方視界試験 (図4 移動中の衝突)

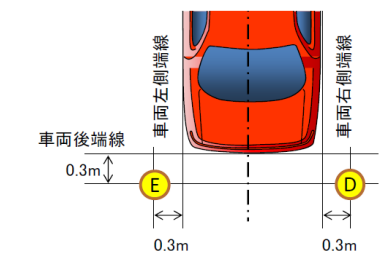
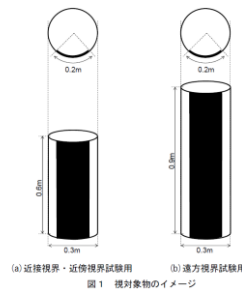


図3 近傍視界試験における視対象物の設置位置

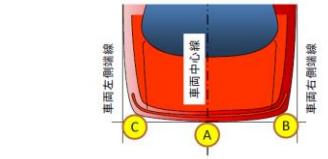


図2 近接視界試験における視対象物の設置位置

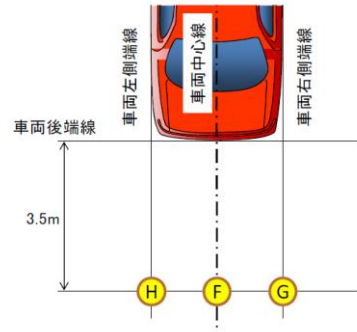


図4 遠方視界試験における視対象物の設置位置

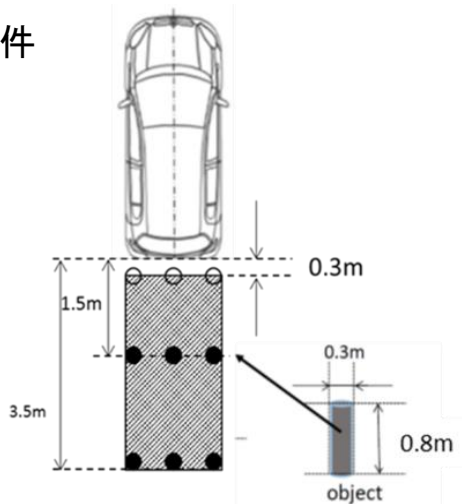
■導入される基準(R158)の概要

- (1) 義務付け対象となる後退時車両直後確認装置 (バックモニター等) の主な要件
 - ・ 車両直後のエリア内の障害物を確認できること。※1
 - ・ 確認手段は後方カメラ、検知システム (ソナー等) 又はミラーによること。※2

※1 検知システムのみで障害物を確認する場合は、確認範囲が一部異なる。
 ※2 一定条件の下において、確認手段を組み合わせることなども可能。

(2) 適用時期

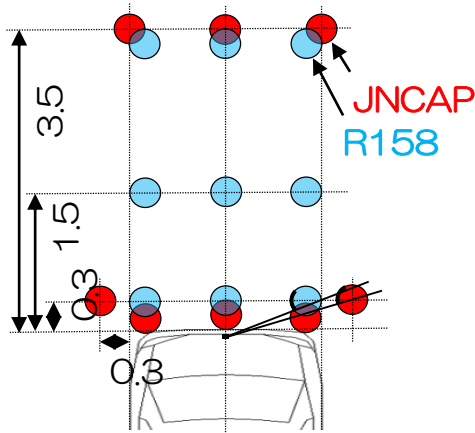
- ・ 新型車：令和4年(2022年)5月～
- ・ 継続生産車：令和6年(2024年)5月～



試験における確認範囲の例

■自動車アセスメントと基準の確認範囲の比較

概ね基準の確認範囲が自動車アセスメントの確認範囲をカバーできている。



■これまでの自動車アセスメントでの評価実績

2015年の評価開始～2020年の6年間、評価を行った78車種の内、全78車種が満点を獲得。

■後方視界情報提供装置性能試験の今後の方向性

- 令和4年度(2022年度) ⇒R158適合車種については、試験実施を省略。(認可証を確認し満点を付与)
- 令和5年度(2023年度) ⇒本試験を廃止